

# 講師プロフィール



## 河村 篤男氏 横浜国立大学 大学院工学研究院 知的構造の創生部門 教授

1981年東京大学博士課程修了、工学博士。米国ミズーリ大学助教授を経て86年横浜国立大学に着任、96年教授、2013年4月から2年間理工学部長兼工学研究院長、現在に至る。専門はパワーエレクトロニクス、デジタル制御、電気自動車駆動系、ロボティクス（主として2足歩行ロボット）など。2018年1月現在、博士課程後期34名、前期131名を修了、ジャーナル論文約120件、国際会議論文約270件、著書5件、特許7件。1988年IEEE/IAS論文誌論文賞、1996年電気学会論文賞、2001年および2002年IEEE/IES論文誌論文賞、2008年EPE-PEMC賞、2014年電気学会業績賞などを受賞。IEEE Fellow、電気学会フェロー、日本ロボット学会など会員。日本学術会議連携会員、2012年5月より1年間電気学会産業応用部門長。



## Mr. Lars Langfeldt

### DNV GL Maritime, Senior Project Engineer, Safety & Systems Engineering

大手エネルギー会社に入社し、業務エンジニアとして高温燃料電池試験プラントの運用を担当することで自身のキャリアをスタートさせた。

2008年以降、DNV GLにおいて、代替燃料と代替燃料電池に関する船舶プロジェクトのサポートに携わっている。現在、ラースはライトハウス・プロジェクト「e4ships」の枠組みの中でDNV GLの研究開発活動を主導する立場にあり、新しい規則と規定の策定、ならびにパイロット・プロジェクトの承認に対応している。こうした開発プロジェクトのもと、主な任務として、海洋船舶と内陸船舶のためのリスクベースのアプローチに基づき運航と燃料補給の特別許可を取得するための代替燃料と燃料電池設備のサポートに従事している。欧州海上保安機関（EMSA）のために船舶の運航における燃料電池の使用に関して最も新しい研究結果を執筆している。



## 柏木 隆行氏 公益財団法人 鉄道総合技術研究所 車両制御技術研究部 水素・エネルギー研究室 室長

1997年早稲田大学大学院 理工学研究科修士課程 電気工学専攻修了。同年（財）鉄道総合技術研究所入所。これまで超電導磁気浮上式鉄道の研究・開発，同技術の在来方式鉄道への応用に関する研究・開発に従事し，現在は主に燃料電池鉄道車両の研究・開発を担当。2017年7月より現職。



## Mr. Andreas Frixen

### ALSTOM Transport S.A Regional Platform- Products & Innovation

ドイツ・ハンブルグ大学にて機械エンジニアリング及び鉄道エンジニアリングを学ぶ。その後、鉄道産業にて20年の経験を積み、アルストム社における鉄道関連の水素ステーションや水素供給の専門家となる。2016年6月より世界初の水素燃料利用の鉄道-Coradia iLINT プロジェクトのリーダーマネージャー。



## 大出 剛氏 国立大学法人東京海洋大学 次世代水上交通システム研究開発PJT 特任教授

東京商船大学卒業後、横河電機株式会社にて製品技術開発に従事後、事業責任者を経て、2010年より東京海洋大学にて急速充電対応型電池推進船、燃料電池船などの研究開発、モータ制御方式によるプロペラ挙動に関する研究等に従事している。



## Mr. Lionel Boillot FCH-JU, Project Manager on large European projects

アルビ鉱業学校卒業。欧州委員会およびFCH2 JUにおいて8年にわたりプロジェクト管理者として経験を積む。2014年より現職。

現在までの主業務として、FCH2 JUでは、およそ12のプロジェクト（予算4億ユーロ）、水素の輸送とインフラに携わる。REAでは、およそ45のプロジェクト（予算1億ユーロ）、工業技術（輸送、ICT、資材、エネルギー）に携わる。DG RTDポートフォリオでは、およそ40のプロジェクト（予算1億3,500万ユーロ）、石炭エネルギーの研究（エネルギー）に携わる。